

令和 8 年度事業計画書
(令和 8 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 3 1 日)

一般財団法人 日本冷媒・環境保全機構
JRECO 情報処理センター

当機構は、平成 27 年 1 月 27 日付けでフロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（平成 13 年法律第 64 号。以下「法」という。）第 76 条に基づく情報処理センターに指定されたことを受け、法第 77 条に規定する業務を行う。

当機構では、令和 8 年度の JRECO 情報処理センターの事業として、業務規程に基づき、以下の業務を行う。

(1) 情報処理業務の実施に関する事項

① 情報処理業務の内容

JRECO 情報処理センターは、法第 77 条に掲げる以下の情報処理業務を令和 7 年度に引き続き適切かつ確実に実施する。

- ・ 法第 38 条第 1 項及び法第 40 条第 1 項の規定による登録に係る事務を電子情報処理組織により処理する。
- ・ 上記登録事務を電子情報処理組織として構成される電子計算機その他の機器を使用・管理、並びにプログラム、データ、ファイル等を作成し、及び保管する。
- ・ 法第 38 条第 2 項（法第 40 条第 2 項において準用する場合を含む。）の規定による通知並びに法第 38 条第 3 項（法第 40 条第 2 項において準用する場合を含む。）の規定による記録及び保存を行う。

また、本年度の情報処理業務については、年間登録件数を 3,500 件と見込んでいる。業務開始から 12 年目となるが、年間登録件数は近年 2,500 件前後で推移しており、ほぼ横ばいの状態が続いている。しかし、法改正の動向により、法令遵守への意識や情報処理センター利用への関心が再び高まることも予想されることから、本年度の計画値として設定した。

なお、令和 8 年 3 月 1 日現在の情報処理センターへの管理者・廃棄者、充填回収業者の登録事業所数は下記の通りである。

- ・ 管理者・廃棄者 27,150（機器登録台数は 299,137 台）
- ・ 充填回収業者 2,878

（充填回収業者の場合、1 事業所で複数の都道府県を登録している都道府県をそれぞれ個別に累計した場合は 8,145）

② 情報処理業務に関連する問い合わせ対応や事務処理について、適正に処理できる体制の構築と、効率的な実施

人員体制は、これまでのノウハウの蓄積等の活用及び利用者の増加に伴う多岐にわたる様々な要求や問い合わせ等にも適切に対応していくため、法の周知及び RaMS の普及促進を担当する企画・調査部と連携しながら、業務の効率化を図った上で情報システム部を2名体制としてシステムの適正な運用に当たることとする。

経理に関しては、インボイス制度や電子帳簿保存法を遵守し、情報処理センター利用のために預託された預かり金と、情報処理センターの利用に応じて当機構が収受する利用料金等について、収支計画書に基づき適切な管理を行う。また、RaMS 事業から情報処理センターへの分離会計における費用配分については、売上比率および人頭比率等を用い、実態に即した按分を行っている。

昨年度決算においては、業務の効率化および経費の抑制により、当期一般正味財産増減額は約7.7万円の黒字となり、期末一般正味財産残高は約10.4万円となる見込みである。本年度においても、引き続き適正な収支管理に努めるとともに、安定的な事業運営を前提として、当期一般正味財産増減額約11.8万円の黒字を確保し、期末一般正味財産残高は約22.2万円となる計画としている。

(2) 情報処理業務に用いる設備の維持及び更新の見通し

① 機器更新や拡充等各種の機能改善の適切な実施

情報処理業務を実施するために必要な電子計算機その他の機器については、データの使用可能領域は最大64TBに対して、現在の使用領域は51.6GB（OSなどを含む全使用容量）であるため、データ処理及びデータ容量に関しては十分な余裕があり、基本的には機器の更新や拡充の必要性はなく現状維持とするが、本年度上半期に更なるセキュリティ面の強化を図るため、クラウドサーバのOS・ミドルウェアEOL対応、データベースの暗号化、ログイン時の認証強化を実施することとする。

また、各種の機能改善については情報処理センターの利用者の利便性の向上や作業効率性を高めるため、昨年度と同様に、システム仕様の改善や追加を随時行い、継続的に改善を図ることとする。なお、法令の改正に伴いシステム仕様の変更や追加等が必要とされる場合には、適正、迅速に対応する予定である。

参考として、昨年度の実績としては、以下の改善を行った。

- ・ 情報処理センター登録時等における「作業年月日」未来日付不可仕様
- ・ ログブックの有効期限（有効期間）を1年後の月末まで延長
- ・ 簡易点検一括登録の選択フォーマット対象機器の網掛け表示、「その他」フォーマットの名称登録
- ・ RaMS-ex ボタン表示変更
- ・ クラウド用リレーショナルデータベースのインプレースアップグレード

② システムの安定運用のための保守管理の実施

情報処理業務を実施するシステムは、これまでと同様に安定した運用を図るために高いセキュリティで保護されたデータセンター内に構築し、外部からのアクセスは暗号化された通信手段やファイアウォールによる接続制限を設けている。システムの開発、変更、維持に関する運用管理の実務は外部委託による専門業者に一任し、JRECOからの

サーバーへの直接のアクセスも行えない仕組み（アクセスは Web 経由のみ）とすることで、万一 JRECO 内の情報機器に不正アクセスやウイルス感染が発生した場合でも、情報処理センターのシステムは隔離された環境としている。

委託先の運用管理者（専門業者）は、JRECO からの要求に応じてシステムの開発や変更を行うと共に、不具合発生時の対応やサーバーの CPU 使用率によりシステム運用状況の監視を行っている。同運用管理者と JRECO とは、開発や仕様変更ならびに利用者からの問い合わせ等に対応するため 1～2 週に 1 度程度の頻度で照会や情報交換を行っており、引き続き緊密に連携して安定運用を図ることとする。

なお、安定した運用について現時点では問題なく維持されており、設備能力も当面は拡充や能力向上を図る必要はないと考えられるので、特段の事情の変化がない限り、本年度も現在と同様のシステム体制を維持・管理することで対応を行うこととする。

（3）その他必要な事項に関する事項

- ① 本年度 4 月より RaMS ログブック新規作成料金（機器登録料）を改定する。
（改定後、シール有り税抜 660 円/台、シール無し 550 円/台）なお、情報処理センター利用料金（機器整備時の充填量・回収量登録料 税抜 100 円/件）等に変更はなし。
- ② 昨年度は、フロン排出抑制法の内容も含め情報処理センターの意義や利用方法の広報活動を行い、情報処理センターの利用の普及・促進を図ってきた。
 - ・情報処理センターの利用に関する説明会（Web 及び来場型）を計 13 回開催（参加者数 480 名）（添付資料 A）、他にも利用者の要請に対する個別 Web 説明会の開催
 - ・フロン対策格付け表彰式・情報交流会を開催（添付資料 B）
 - ・国の要請により、中国 生態環境省訪日研修（OECC）においてフロン排出抑制法及び RaMS の説明を実施
 - ・HVAC&R JAPAN 2026（第 44 回冷凍・空調・暖房展）（1 月 27 日から 1 月 30 日）の情報発信コーナーに出展（添付資料 C）
 - ・フロン排出抑制法及び情報処理センターに関する専用ポータルサイトを公開、動画配信サービスや SNS 媒体を利用した周知、広報活動の実施
 - ・分かり易い提案説明書を作成し、製造業者、スーパー等小売業者、食品加工業者、ビル管理会社、大学、病院をはじめとする潜在利用者 100 社以上に個別に接触し紹介や説明を実施、また、関連団体及びその傘下の企業へ電話、メール等による周知、広報活動を実施
 - ・地方自治体の要請に応じて、法令及び情報処理センターの利用に関する講習会・説明会に講師を派遣及び資料を配布
 - ・大手上場企業等に SDGs（持続可能な開発目標）としてフロン類管理の CSR（ESG）報告書記載を啓発、法令遵守に関して CSR・環境関係の情報提供機関、弁護士事務所と連携して周知活動を実施
 - ・業界紙、関係団体（日設連・東冷協）会報への広告掲載
 - ・情報処理センター利用者へ情報メール（Tips）の発信、情報提供サービスの強化
 - ・国や地方自治体へ検討資料用として、秘匿性を確保した形（統計データ）で RaMS データを提供

本年度においても、情報処理センター利用の一層の拡大にむけて昨年度同様に普及

広報活動を継続して行う。

- ・ Web 配信等による説明会を随時開催
- ・ 分かり易い資料での潜在利用者への個別紹介、説明
- ・ ポータルサイトのコンテンツ充実
- ・ 動画配信サービスや SNS 媒体を利用した情報発信
- ・ 利用者の法人名、ロゴマークの公開、事例等の紹介（添付資料D）
- ・ 業界紙、関連団体会報への広告掲載（添付資料E、F、G）

添付資料


- A. 令和7年度説明会
- B. フロン対策格付け表彰式・情報交流会
- C. HVAC&R JAPAN 2026（第44回冷凍・空調・暖房展）
- D. 利用法人名・ロゴマーク掲載
- E. 業界紙広告（空調タイムス）
- F. 関連団体会報広告（冷凍空調設備）
- G. 関連団体会報広告（東冷協だより）

令和7年度 RaMS(冷媒管理システム)説明会 申込状況

	セミナー番号	開催場所(都市名)	開催日	申込者数	残席数	定員数	受付状況	受講者数計
1	279	東京都(Web生配信)	2025/5/14	86	14	100	終了	71
2	280	東京都(Web生配信)	2025/7/8	113	▲ 13	100	終了	92
3	281	東京都(来場型)	2025/9/3	57	43	100	終了	56
4	282	東京都(Web生配信)	2025/11/19	95	5	100	終了	87
5	283	東京都(HVAC&R展)	2026/1/27(1回目)	—	—	20	終了	8
6	284	東京都(HVAC&R展)	2026/1/27(2回目)	—	—	20	終了	5
7	285	東京都(HVAC&R展)	2026/1/28(3回目)	—	—	20	終了	6
8	286	東京都(HVAC&R展)	2026/1/28(4回目)	—	—	20	終了	11
9	287	東京都(HVAC&R展)	2026/1/29(5回目)	—	—	20	終了	5
10	288	東京都(HVAC&R展)	2026/1/29(6回目)	—	—	20	終了	10
11	289	東京都(HVAC&R展)	2026/1/30(7回目)	—	—	20	終了	8
12	290	東京都(HVAC&R展)	2026/1/30(8回目)	—	—	20	終了	8
13	291	東京都(Web生配信)	2026/3/3	124	▲ 24	100	終了	113

合計 480

JRECOホームページ
(「フロン排出抑制法と冷媒管理システムRaMS」説明会)



一般財団法人 日本冷媒・環境保全機構
JRECO Japan Refrigerants and Environment Conservation Organization

団体概要 事業内容 会員 情報セキュリティポリシー

フロン排出抑制法と冷媒管理システムRaMS
9/3 来場型説明会×パネルディスカッション開催

改正フロン排出抑制法により、罰則が強化されてから6年。東京都も立入検査を年々強化していく中、JRECOでは冷媒管理システム『RaMS』を導入している大手企業3社をお招きして、冷媒管理の現状を管理者・充填回収業者の方々にお伝えするパネルディスカッションを開催いたします。また、環境省 フロン対策室 室長 飯野様の基調講演も予定しています。

【開催概要】


- ・タイトル: **RaMS導入企業3社によるパネルディスカッション**
【環境省 フロン対策室 室長 飯野様 基調講演】
- ・開催日時: 2025年9月3日(水) 13時30分~16時10分
(受付開始13:15)
- ・開催場所: 機械振興会館6F ※事前申込(必須)
- ・プログラム:

1.開会の挨拶
2.第一部 ・【基調講演】 環境省 フロン対策室 室長 飯野様 ・『冷媒フロンの課題とフロン法のポイント』 (一財)日本冷媒・環境保全機構 参与 作井 ～ 休憩～
3.第二部 ・RaMS導入企業3社によるパネルディスカッション (パネリスト) ・旭化成株式会社様 ・ANAホールディングス株式会社様 ・学校法人 慶應義塾様 (コメンテーター) 環境省 フロン対策室 室長 飯野様
4.第三部 ・総評 環境省 ～ 終了～

- ・申込期限: 2025年8月27日(水)
※定員100名に到達次第締め切らせていただきます。
- ・申込方法: 下記申込フォームから必要事項を入力の上、お申し込み下さい。

申し込みはこちら

- ・参加費: 無料
- ・定員: 100名



一般財団法人 日本冷媒・環境保全機構
JRECO Japan Refrigerants and Environment Conservation Organization

団体概要 事業内容 会員 情報セキュリティポリシー

お知らせ・新着情報

RaMS導入3法人様によるパネルディスカッションを開催しました

JRECOは、2025年9月3日、東京都港区の機械振興会館にて「来場型セミナー×パネルディスカッション」を開催しました。当日は冷媒管理システム『RaMS』を導入されている3法人様をパネリストとしてお招きしました。活発な議論がなされ実体験に基づく具体的なお話も伺い大変有意義なディスカッションとなりました。

【ご参加いただいたパネリスト】
旭化成株式会社 環境安全部環境グループ長 山本恵一様
ANAホールディングス株式会社
サステナビリティ推進部 マネージャー 有満也人様
学校法人 慶應義塾 管財部施設担当 課長 鈴木健史様

【開催のお知らせ】

フロン排出抑制法 RaMS 冷媒管理システム

来場型セミナー × パネルディスカッション

・RaMS導入企業3社による冷媒管理の現状
・立入検査/罰則強化を回避する冷媒管理

改正フロン排出抑制法により、罰則が強化されてから6年。東京都も立入検査を年々強化していく中、JRECOでは冷媒管理システム『RaMS』を導入している大手企業3社をお招きして、冷媒管理の現状を管理者・充填回収業者の方々にお伝えするパネルディスカッションを開催いたします。

【RaMS導入企業パネリスト】
・旭化成(株)様
・学校法人 慶應義塾様
・ANAホールディングス(株)様
【特別コメンテーター】
・環境省 フロン対策室 室長様

会場 **機械振興会館 6F**
東京都港区芝公園3-5-8
※受付開始 (13:15~13:30)

日時 **2025年9月3日(水)**
※13:15~受付開始

第一部 環境省 フロン対策室 室長 【基調講演】
・JRECO【冷媒フロンの課題と解決】
(13:30~14:35)

第二部 【パネルディスカッション】(14:45~16:00)
・RaMS導入企業3社による冷媒管理の現状
・テーマ別討論会
・質疑応答

第三部 【総評】(16:00~16:10)
・環境省 フロン対策室 室長

【講演及びパネルディスカッション】
① 環境省地球環境局フロン対策室 飯野室長様にフロン対策の概要と現状につき基調講演として政府の施策を解説頂きました。またディスカッション後の総括としてRaMSによる効率的な電子管理にも触れながら、今後のフロン管理徹底にむけたご意向もわかり易く紹介頂きました。

フロン対策格付け表彰式・懇親会〔2025年5月26日開催〕

関連資料：第4回 JRECO フロン対策格付け～「フロン排出抑制法」遵守状況
https://www.jreco.or.jp/data/2024_Kakuduke_Ranking_0206.pdf

フロン対策格付け表彰式・懇親会を開催しました

JRECOは、2025年5月26日、東京都港区の機械振興会館にて「フロン対策格付け表彰式・懇親会」を開催しました。

本イベントは、JRECOが実施する「フロン対策格付け」において、最高評価であるAランクを受けた企業の皆様に表彰状を授与し、併せて意見交換を通じた情報交流の場を設けることで、フロン類機器管理の更なる適正化を目指すものです。

当日は、環境省、経済産業省、東京都など関係行政機関からご来賓をお迎えし、全国から94社のAランク企業のうち38社が出席。各社に表彰状をお渡ししました。表彰企業を代表して、積水ハウス株式会社様より「法令順守のため全社一丸で冷媒の適正管理に取り組んでいる。今後はJRECOの冷媒管理システム『RaMS』をグループ会社にも展開したい」との力強いコメントをいただきました。

表彰式後の懇親会では、参加者同士が積極的に情報交換を行い、フロン排出抑制に向けた連携の輪が広がりました。

※「フロン対策格付け」について

プライム市場上場企業1,641社を対象に、統合報告書やSDGsレポート等をもとにJRECOが独自の視点と基準で評価する取り組みで、企業のフロン排出抑制や機器管理の状況を5段階（A～E）で格付け、公表しています。

2021年度から始まり、年々評価の精度と認知が高まっており、Aランク企業は第1回16社、第2回49社、第3回76社、第4回(今回)94社と増加しています。



<表彰企業38社記念写真>



<懇親会の様子>

(JRECOホームページ https://www.jreco.or.jp/info_20250526.html)



HVAC&R JAPAN 2026

ヒーバック&アール ジャパン2026
第44回冷凍・空調・暖房展

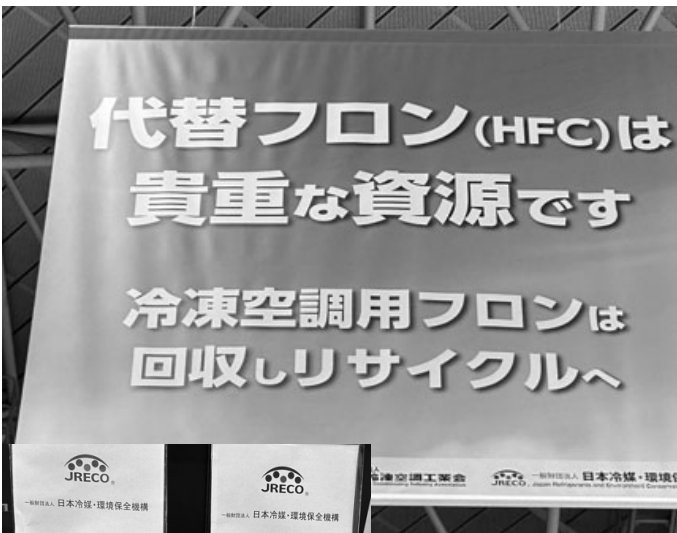
2026 **1.27** TUE → **1.30** FRI

会場: 東京ビッグサイト **ヒーバック**
主催: 一般社団法人 日本冷凍空調工業会
The Japan Refrigeration and Air Conditioning Industry Association (JRAIA)



1月30日 金	
プレゼンテーション ステージ	ホールステージ
10:00 講演④ 富士経済 吉田 颯	『冷媒循環型経済の 実現に向けて』 【第1部】 基調講演: 環境省
11:00 講演⑤ Pureblu Technologies Pvt Ltd / Nova HVAC Systems India Pvt Ltd CEO Ajit Panicker	【第2部】 プレゼンテーション: ・日本冷凍・環境保全機構 ・東京部 環境局 ・阿部化学 ・早稲田大学 【第3部】 パネルディスカッション
12:00	
13:00 日本冷凍空調 工業会④ A2Lビルマル、GL関連	基調講演IV 豊田SI技術士事務所 豊田 武二
14:00 講演⑥ 日本冷凍空調設備工業連合会 大沢 勉	出展者 プレゼンテーション ジョージフィッシャー株式会社
15:00 講演⑦ 日本冷凍・環境保全機構 作井 正人	HVAC&R アワード /ソリューション・サービス部門 受賞者 プレゼンテーション
16:00	

HVAC&R JAPAN 2026
情報発信コーナー



JRECO ブースではフロン排出抑制法の周知、RaMS、情報処理センター利用をPR

利用法人名・ロゴマーク掲載 (https://www.jreco.or.jp/rams_jirei.html)



〒105-0011
 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館 406-2
 TEL: 03-5733-5311 FAX: 03-5733-5312

団体概要	事業内容	会員	情報セキュリティポリシー	アクセスマップ	English
------	------	----	--------------	---------	---------

RaMS導入事例とご利用企業・法人例 (五十音順・敬称略)

				 学校法人 東海大学	
					 Orchestrating a brighter world
	 学校法人 金沢医科大学		 Inspire the Next		
			 at your side	 北雄ラッキー株式会社	 北陸電力 ビズ・エナジーソリューション株式会社
			 株式会社前川製作所		 三菱ケミカル株式会社
 静岡市中央卸売市場					
			 生きる力を応援します		
 武田薬品工業株式会社		 ツルガハマランド株式会社 くだまつ健康パーク			掲載に了解頂いた企業・法人様

RaMS導入事例

- 株式会社 クレハ
- 種水化学工業株式会社
- 種水ハウス株式会社
- デンカ株式会社
- 三菱マテリアル株式会社 若松製作所
- 北雄ラッキー株式会社
- 学校法人 慶應義塾
- 北陸電力ビズ・エナジーソリューション株式会社
- 旭化成株式会社 水島製造所
- イオンディライト株式会社
- UBE株式会社 宇部ケミカル工場

RaMSご利用されている企業・法人例 (名称掲載を了解頂いたもの)

- | | | |
|---------------------------|---------------------|------------------------|
| 旭化成株式会社 水島製造所・鈴鹿製造所・川崎製造所 | 出光興産株式会社千葉事業所 | 国立大学法人 千葉大学 |
| イオングループ (23社) | 株式会社ENEOSマテリアル | ツルガハマランド株式会社 くだまつ健康パーク |
| ANAホールディングス株式会社 | カシオ計算機株式会社 | デンカ株式会社 |
| 株式会社 大塚商会 | 協同油脂株式会社 | 学校法人 東海大学 |
| 学校法人 金沢医科大学 | クローダジャパン | 凸版印刷株式会社 |
| 株式会社 クレハ | 経済産業省 | 株式会社 日本触媒 |
| 学校法人 慶應義塾 | 東日本製鉄所 (京浜地区) | 株式会社 日立製作所 |
| 学校法人 工学院大学 | シャープ株式会社 | ブラザー工業株式会社 |
| JFEスチール株式会社 | 積水化学工業株式会社 | 北雄ラッキー株式会社 |
| 静岡市中央卸売市場 | 積水ハウス株式会社 | 北陸電力ビズ・エナジーソリューション株式会社 |
| 西武鉄道株式会社 | 大王製紙株式会社 可見工場・三島工場 | 株式会社前川製作所 |
| 積水樹脂株式会社 | ダイハツ工業株式会社 滋賀(竜王)工場 | 株式会社 Mizkan Partners |
| ソフトバンク株式会社 | 武田薬品工業株式会社 | 三菱ケミカル株式会社 |
| 三菱マテリアル株式会社 若松製作所 | | 三菱電機株式会社 |
| 富士通株式会社 | | UBE株式会社 宇部ケミカル工場 |
| 北雄ラッキー株式会社 | | 株式会社リブドコーポレーション |
| 株式会社前川製作所 | | |
| 三菱ケミカル株式会社 | | |
| 三菱マテリアル株式会社 若松製作所 | | |
| 雷印メグミルク株式会社 野田工場 | | |
| YKK AP株式会社 | | |

令和7年11月15日発行(毎月1回15日発行)第52巻 第11号 通巻600号 昭和50年7月4日第3種郵便物認可 ISSN 0285-5062

冷凍空調設備

REFRIGERATION & AIR-CONDITIONING CONTRACTORS

11

Vol.52 No.11
2025 November

令和6年度 冷凍空気調和機器施工
試験問題解答・解説2級
銅管フレア加工・ろう付技術講習会
優良省エネルギー設備顕彰事例募集



広島城(広島県)

JARAC 一般社団法人 日本冷凍空調設備工業連合会

ラムズ RaMS利用で 企業価値UP!



**RaMSで冷媒管理！
書類保存が確実！
クラウド管理なので安心です！**

(一財)日本冷媒・環境保全機構は RaMS を運営提供するとともに、「フロン排出抑制法」(第76-85条)に基づき、経済産業省・環境省から「情報処理センター」として指定されています

「フロン排出抑制法」に準拠した冷媒管理で地球環境の改善に貢献する環境先進企業へ

デジタル化推進

デジタル化により、紙媒体をなくし、機密情報も安全に保管することが求められています。またドキュメントの電子化で、業務効率化やコスト削減ができます

地球温暖化防止

フロン類は、地球温暖化をもたらす温室効果ガスの中で二酸化炭素(CO₂)に比べ最大1万5千倍も影響があり、適正管理が必要となります

ISO14001 対応

ISO14001活動を行う中で「環境側面」として「フロン排出抑制法」対応にRaMSを利用することで効率的な管理が可能になり、審査時のエビデンスとなります

CSR 推進支援

CSRレポート・環境報告書は、法令順守、自主活動を通じ、企業の社会的責任の遂行状況を対外的に開示するものとして作成、発行が求められています

●JRECO 冷媒管理システム RaMS (ラムズ) のお問合せ先



一般財団法人 日本冷媒・環境保全機構 企画・調査部
電話：03-5733-5311 E-mail：contact@jreco.or.jp
〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 406-2

TRK

令和7年7月1日発行

一般社団法人 東京都冷凍空調設備協会

東冷協だより

2025. **7・8**
No.450

● 目次

・今、思うこと..... 1	・行事予定..... 33
・お知らせ..... 2	・展示会見学記..... 35
・技術レポート..... 24	・我社の自慢..... 36
・サロン..... 26	・豆知識..... 37
・私の挑戦..... 28	・こころのコラム..... 39
・行事報告..... 30	・会員の動向..... 41
・業界トピックス..... 32	・名刺広告..... 42
・東冷協日誌..... 33	・ひとこと..... 48



ラムズ RaMS利用で 企業価値UP!



**RaMSで冷媒管理！
書類保存が確実！
クラウド管理なので安心です！**

(一財)日本冷媒・環境保全機構はRaMSを運営提供するとともに、「フロン排出抑制法」(第76-85条)に基づき、経済産業省・環境省から「情報処理センター」として指定されています

「フロン排出抑制法」に準拠した冷媒管理で地球環境の改善に貢献する環境先進企業へ

デジタル化推進

デジタル化により、紙媒体をなくし、機密情報も安全に保管することが求められています。またドキュメントの電子化で、業務効率化やコスト削減ができます

地球温暖化防止

フロン類は、地球温暖化をもたらす温室効果ガスの中で二酸化炭素(CO₂)に比べ最大1万5千倍も影響があり、適正管理が必要となります

ISO14001 対応

ISO14001活動を行う中で「環境側面」として「フロン排出抑制法」対応にRaMSを利用することで効率的な管理が可能になり、審査時のエビデンスとなります

CSR 推進支援

CSRレポート・環境報告書は、法令順守、自主活動を通じ、企業の社会的責任の遂行状況を対外的に開示するものとして作成、発行が求められています

●JRECO 冷媒管理システム RaMS (ラムズ) のお問合せ先



一般財団法人 日本冷媒・環境保全機構 企画・調査部
電話：03-5733-5311 E-mail：contact@jreco.or.jp
〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 406-2

収支予算書(令和8年度計画)

(情報処理センター)

自 令和 8年 4月 1日
至 令和 9年 3月 31日

一般財団法人 日本冷媒・環境保全機構

東京都港区芝公園 3-5-8

機械振興会館 406-2

予定貸借対照表

令和9年3月31日

情報処理センター(指定法人)

その他会計

(単位：円)

科 目	令和8年度 計画
I 資産の部	
1. 流動資産	
仮勘定	385,000
流動資産合計	385,000
2. 固定資産	
ソフトウェア	0
固定資産合計	0
資産合計	385,000
II 負債の部	
1. 流動負債	
仮勘定	162,764
流動負債合計	162,764
負債合計	162,764
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	0
2. 一般正味財産	222,236
正味財産合計	222,236
負債及び正味財産合計	385,000

予定正味財産増減計算書

令和8年 4月 1日から令和9年 3月31日まで

情報処理センター(指定法人)

その他会計

(単位：円)

科 目	令和8年度 計画
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
事業収益	385,000
受取補助金	0
雑収益	0
経常収益計	385,000
(2) 経常費用	
事業費	
人件費	85,741
会議・研修費	227
旅費交通費	1,247
通信運搬費	1,681
減価償却費	61,718
消耗品費	34
印刷製本費	15,282
広告宣伝費	3,821
銀行手数料	764
手数料その他	0
租税公課その他	619
外注費	0
調査費	0
自己負担金	0
委託費(システム保守費等)	44,166
コンサルタント料	29,946
管理費	21,600
経常費用計	266,846
評価損益等調整前当期経常増減額	118,154
評価損益等計	0
当期経常増減額	118,154
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
税引前一般正味財産増減額	118,154
法人税・住民税及び事業税	0
当期一般正味財産増減額	118,154
一般正味財産期首残高	104,082
一般正味財産期末残高	222,236
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
III 正味財産期末残高	222,236